

## 火災を防ぐポイント

寒い時期になると乾燥する日が多くなり、火事も多くなります。

今回は火災を防ぐ方法を紹介します。参照は政府広報オンラインです。

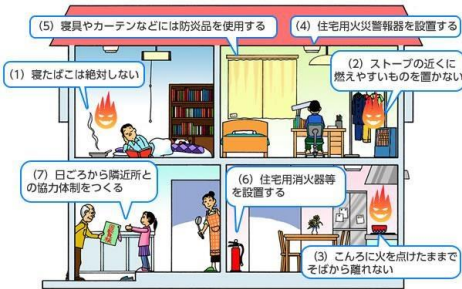
住宅火災から命を守るためには、死亡者の割合が高い逃げ遅れを防ぐ必要があります。これを防ぐために消防庁は「三つの習慣と四つの対策」を呼びかけています。

### 習慣

- ①ストーブの近くに燃えやすいものを置かない
- ②コンロに火をつけたままそばから離れない
- ③寝タバコをしない

### 対策

- ①寝具やカーテンを防災品に信頼できるものを選ぶためには「防災ダブル」や「防災製品ラベル」を目印にしましょう。
- ②住宅用火災警報器を設置
- ③隣近所との協力体制
- ④住宅用火災警報器を設置



適応する火災が絵で分かりやすく表示されていますので、必要な用途に合わせて、住宅用火災警報器を選びましょう。

火災から命を守るために、火災の発生を感知し知らせる「住宅用火災警報器」の設置がすべての住宅に義務付けられています。

住宅用火災警報器は、「寝室」と「寝室がある階段の上部」に設置する必要があります。ホームセンターや家電量販店、メーカーのウェブサイトで購入することができます。購入するときは、感度やブザーの音量などが基準に合格したマークが付いた製品を目印にしましょう。

また、住宅用火災警報器がきちんと作動するか定期的に点検し、十年を目安に交換をしてください。住宅用火災警報器には、「単独型」と「連動型」の二つの種類があります。単独型は火災を感知した物だけが警報を発するものです。連動型は、火災を感知した物だけでなく、連動設定を行っているすべての住宅用火災警報器が警報を発するものとなっています。

このようなことに気をつけて火災への備えを行い、火事を起こさず、安心した冬を送りましょう。(1年)

## 備えあればうれしい！ 非常食の必須知識2選！

今回は非常食について覚えておくべき知識を二つ紹介します。まず非常食を選ぶ際に気をつけるべき点についてです。一つ目は「美味しさ」です。避難中、不安によるストレスが付きまとう状況では食事の質を上げることが気楽になります。

二つ目は「調理せずに食べられる」ことです。災害後三日間は水も電気も使えないことが多く、包装を開けるだけで食べられるものを選ぶことが重要になります。

三つ目は「お腹にたまる」ことです。最低限のカロリーを摂取することは重要です。四つ目は「後始末が簡単である」ことです。避難所生活では普段のようにゴミを処理することはできません。缶よりもコンパクトになる紙やビニール包装の物がおすすです。

次に非常食の備蓄に関する注意点についてです。最も推奨されているのは「回転備蓄ローリングストック法」です。これは古くなった非常食を消費し、足りなくなった分を購入すると言ったものです。非常食の味に慣れることができ、賞味期限を気にしなくて良いなどたくさんメリットがあります。

非常食を日頃から蓄えておくことはとても大切です。非常時に少しでも不安を減らすため、一度自宅の非常食を確認して見ましょう。(3年)

## 防災士養成講座

十・十一月にかけて行われた防災士養成講座に四年生四名、五年生三名が参加しました。この講座は減災と地域の防災力向上のために活動する防災士の資格を取るために行われているものです。今回参加した七名は全員合格することが出来ました。防災士として地域の防災活動を行っていきます。

《クイズ防災》 土砂災害の前兆は？ふさわしいものをすべて選択せよ。

10月号の答え： ア腐った土の臭いがする ウ小石がパラパラと落ちてくる エ地鳴りが聞こえる オ崖にひび割れができる  
イ耳鳴りがする は竜巻の前兆。竜巻が迫ってくると気圧の低下により耳鳴りがすることがあります。